

第6回全体研究会

テーマ：「中国的80年代」

報告：馬 国川（雑誌『財経』主筆）

日時：2016年11月25日（金）18：00～20：00

司会：高橋伸夫（慶應義塾大学）

場所：大学院校舎8階 東アジア研究所共同研究室1

使用言語：中国語

【概要】

本報告は2005年ごろから中国社会で現れた「80年代」ブームを取り上げた。報告者はブームが形成された背景を分析し、自らの「80年代」観を披露した。まず80年代とは実際1976年から1989年までの13年間であり、思想面においては啓蒙運動、経済面においては方向性の模索、政治面においては前進と後退を何度も経験した改革であると論じた。また、80年代が終結した理由とその意義にも言及し、現在の中国政治、ひいてはその行く末を理解するために80年代についての研究は非常に有用であると主張し、さらなる研究が必要だと呼びかけた。質疑応答ではフロアとの間で胡喬木など具体的人物に関する事実の確認や、いわゆる改革派・保守派の分類の妥当性、特定の人物の役割の分析方法、80年代の日中関係など、多岐にわたる議論がなされた。